

2015年2月17日

独立行政法人国立長寿医療研究センター

第一生命保険株式会社

---

## 認知症その他の長寿医療情報の普及啓発に向けて、 独立行政法人国立長寿医療研究センターと第一生命保険株式会社が 包括連携協定を締結

---

独立行政法人国立長寿医療研究センター(所在地:愛知県大府市、理事長:鳥羽 研二、以下、「国立長寿医療研究センター」と第一生命保険株式会社(本社:東京都千代田区、社長:渡邊光一郎、以下、「第一生命」)は、2015年2月17日に、「認知症その他の長寿医療」に関する情報提供について包括連携協定を締結しました。

### 【本協定の概要】

#### (協定締結の目的)

国立長寿医療研究センターは、国の医療政策と一体となって国民の健康を守るため、2004年(平成16年)に設立された国立高度専門医療研究センターで、日本における認知症その他の長寿医療の研究及び治療機関の最高峰の一つとして知られています。昨年11月には、厚生労働省などと共に、世界各国から認知症のケア・予防に関わる専門家や政府関係者を集めた「認知症サミット日本後継イベント」を主催しています。

第一生命は、1902年(明治35年)の創業以来、受け継いできた「お客さま第一主義」を経営の基本理念に据え、生命保険の提供と共に地域社会への貢献に努めてきました。本業の生命保険事業を通じた「確かな安心」と共に、第一生命らしい「充実した健康サポート」を、生涯設計デザイナーなど全国のスタッフによる強固な組織力で幅広く提供してきました。

今回、両者が認知症その他の長寿医療情報の普及啓発に関する包括連携を結ぶことにより、認知症その他の長寿医療に関する高度な研究・医療情報を全国でより広く、効果的にお届けできるようになります。

#### (主な取組み)

今後、「国立長寿医療研究センター」と「第一生命」は共同で、認知症その他の長寿医療に関する基礎知識や予防・治療について幅広く情報提供を行うとともに、認知症患者のご家族への病気との向き合い方や生活に役立つ情報などを提供していきます。例えば、国立長寿医療研究センターが認知症予防運動として推進している「コグニサイズ」(英語のcognition(認知)とexercise(運動)を合わせた造語)の紹介や、全国各地でのセミナーの開催などに取り組んでいきます。